

山形県健康診査実施要領

昭和 62 年 8 月 5 日制定
平成元年 12 月 27 日一部改正
平成 3 年 1 月 10 日一部改正
平成 4 年 6 月 25 日一部改正
平成 6 年 10 月 17 日一部改正
平成 7 年 12 月 15 日一部改正
平成 9 年 4 月 1 日一部改正
平成 10 年 1 月 21 日一部改正
平成 10 年 4 月 1 日一部改正
平成 12 年 4 月 1 日一部改正
平成 13 年 4 月 1 日一部改正
平成 14 年 4 月 1 日一部改正
平成 14 年 7 月 1 日一部改正
平成 15 年 4 月 1 日一部改正
平成 16 年 4 月 1 日一部改正
平成 17 年 4 月 1 日一部改正
平成 18 年 4 月 1 日一部改正
平成 19 年 5 月 25 日一部改正
平成 20 年 5 月 22 日一部改正
平成 21 年 12 月 7 日一部改正
平成 24 年 11 月 8 日一部改正
平成 25 年 3 月 12 日一部改正
平成 25 年 4 月 1 日一部改正
平成 26 年 12 月 9 日一部改正
平成 28 年 4 月 1 日一部改正
平成 29 年 4 月 1 日一部改正
平成 30 年 3 月 28 日一部改正
平成 31 年 3 月 26 日一部改正
令和 3 年 4 月 1 日一部改正

高齢者の医療の確保に関する法律（昭和 57 年法律第 80 号）等に基づく特定健康診査（以下「特定健診」という。）並びに健康増進法に基づくがん検診（以下「がん検診」という。）の実施に当たっては、「特定健康診査及び特定保健指導の実施に関する基準」（平成 19 年 12 月 28 日厚生労働省令第 157 号。以下「実施基準」という。）、「健康増進事業実施要領」（平成 20 年 3 月 31 日健発第 0331026 号厚生労働省健康局長通知。以下「厚生労働省実施要領」という。）並びに「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」（平成 20 年 3 月 31 日健発第 0331058 号厚生労働省健康局長通知。以下「がん検診等実施指針」という。）によるほか、この要領によるものとする。

一 種類別実施内容等について

1 特定健診

特定健診は、実施基準や標準的な健診・保健指導プログラム等、国が定めるところにより実施するものとする。なお、検査項目の判定基準は別表1から3のとおりとする。

また、「山形県糖尿病及び慢性腎臓病重症化予防プログラム」（平成28年12月20日健長第1093号健康福祉部長通知）による糖尿病及び慢性腎臓病に関する受診勧奨値該当者について、保険者は糖尿病・慢性腎臓病連絡票及び糖尿病・慢性腎臓病精密検査回報書（別記様式第1号を参考とする。以下「回報書」という。）を交付し、精密検査を実施した医療機関は、その結果を回報書に記入し保険者に通知する。

2 胃がん検診

(1) 対象者

当該市町村の区域内に居住地を有する50歳以上の者を対象とする。

ただし、胃部エックス線検査については、当分の間、40歳以上の者を対象としても差し支えない。

(2) 検診内容

ア 問診

問診項目は別表4を参考にする。

イ 胃部エックス線検査又は胃内視鏡検査のいずれかとする。

市町村は、胃部エックス線検査及び胃内視鏡検査を併せて提供しても差し支えないが、この場合、受診者は、胃部エックス線検査又は胃内視鏡検査のいずれかを選択することとする。

(3) 検診間隔

原則として同一人について2年に1回とする。ただし、当分の間、胃部エックス線検査については、年1回実施しても差し支えない。

(4) 実施体制

ア 胃部エックス線検査

撮影体位及び方法は、日本消化器がん検診学会の方式によるものとする。撮影枚数は最低8枚とする。

イ 胃内視鏡検査を行う場合の実施体制については、日本消化器がん検診学会の胃内視鏡検診マニュアルを参考に行うこと。

(5) 指導区分

ア 異常なし

イ 要精検：悪性の可能性のある食道、胃、十二指腸疾患

（なお活動性の胃潰瘍は良性として必要かつ十分な根拠がなければ要精検とする）

ウ 精検不要：十二指腸潰瘍および潰瘍癒痕、十二指腸ポリープ、食道裂孔ヘルニア、胆石、腎結石、食道・胃・十二指腸・大腸憩室、腹部石灰化陰影、外部からの圧迫、十二指腸変形、ほぼ良性と判断できる胃潰瘍癒痕、胃ポリープや巨大レリーフ

(6) 結果の通知等

ア 集団検診方式の場合

検診実施機関の長は、検診実施後20日以内に胃がん検診結果報告書（受診者連名簿）（別記様式第2号を参考にする。以下「連名簿」という。）により結果を市町村長に通知し、あわせて要精検者に対する主治医あての胃がん検診結果連絡票（別記様式第3号を参考とする。以下、「連絡票」という。）を送付する。市町村長は、その結果を速やかに受診者に通知する。

イ 医療機関個別方式の場合

検診実施機関の長は、検診実施後2週間以内に結果を直接受診者に通知する。また、市町村長に対し、当該月実施分の結果を連名簿等により翌月15日までに通知する。

(7) 精密検査結果の把握

ア 市町村長は、要精検者に対し連絡票及び胃がん検診精密検査回報書（別記様式第3号を参考にする。以下「回報書」という。）を交付する。

イ 精密検査を実施した医療機関は、その結果を回報書に記入し市町村長に通知する。

(8) 胃がん予防に関する健康教育の実施

市町村長は、胃がん検診の実施にあわせて、胃がんの1次予防に関する健康教育を行うものとする。

3 子宮がん検診

(1) 対象者

当該市町村の区域内に居住地を有する20歳以上の女性を対象とする。

(2) 検診内容

ア 問診

問診項目は別表5を参考とする。

イ 視診及び双合診

ウ 子宮頸部細胞診

エ 子宮体部細胞診（子宮内膜細胞診）

問診の結果、最近6か月以内に、

①不正性器出血（一過性の少量の出血、閉経後の出血等）

②月経異常（過多月経、不規則月経等）

③褐色帯下

のいずれかの症状を有していたことが判明した者に対しては、第一選択として、十分な安全管理のもとで多様な検査を実施することができる医療機関の受診を推奨する。ただし、子宮体部の細胞診（子宮内膜細胞診）を実施することについて本人が同意する場合には、子宮頸部がん検診に併せて引き続き子宮体部の細胞診を行う。

(3) 検診間隔

原則として同一人につき2年に1回検診を実施する。なお、検診体制が整備され、実施可能な場合については年1回検診を実施することができる。

(4) 判定及び指導区分

検診結果の判定及び指導区分は別表6及び別表7により行う。

(5) 結果の通知等

ア 集団検診方式の場合

検診実施機関の長は、検診実施後20日以内に子宮がん検診票（別記様式第4号を参考にする。以下「検診票」という。）等により、結果を市町村長に通知し、あわせて要精検者に対する主治医あての子宮がん検診結果連絡票（別記様式第5号を参考にする。以下「連絡票」という。）を送付する。市町村長は、その結果を速やかに受診者に通知する。

イ 医療機関個別方式の場合

検診実施機関の長は、検診実施後2週間以内に、結果を直接受診者に通知する。また、市町村長に対し、当該月実施分の結果を検診票等により翌月15日までに通知する。

(6) 精密検査結果の把握

ア 市町村長は、要精検者に対し連絡票及び子宮がん精密検査回報書（別記様式第5号を参考にする。以下「回報書」という。）を交付する。

イ 精密検査を実施した医療機関は、その結果を回報書に記入し市町村長に通知する。

(7) 子宮がん予防に関する健康教育・保健指導の実施

市町村長は、子宮がん検診の実施にあわせて、必要に応じ、教育関係者や母子保健担当者とも連携を図りながら、子宮がんの1次予防に関する健康教育を行うものとする。

なお、エストロゲン単独投与を受けたことがある者等、子宮がんのハイリスク者と考えられる者に対しては、子宮体がん罹患する可能性が高いことを説明した上で、今後不正出血等の臨床症状を認めた場合にはすみやかに専門の医療機関を受診するよう指導するものとする。

4 肺がん検診

(1) 対象者

当該市町村の区域内に居住地を有する 40 歳以上の者を対象とする。

(2) 検診内容

ア 質問

質問項目は、別表 8 を参考とする。

イ 胸部エックス線写真の読影

胸部エックス線写真を用い、次の方法により二重読影及び比較読影を行う。

ただし、間接写真は 100 ミリミラーカメラを用い、定格出力 150kV 以上の撮影装置を用いて 120kV 以上の管電圧で撮影されたもの、及び定格出力 125kV 以上の撮影装置を用い、110kV 以上管電圧により、希土類蛍光板を用いて撮影されたものを用いることが望ましい。

(ア) 二重読影

十分な経験を有する 2 名以上の医師が読影する。読影結果の判定は別表 9 によって行い、判定区分の「d」及び「e」に該当するものについて比較読影を行う。

(イ) 比較読影

過去に撮影した胸部エックス線写真と比較しながら読影する。読影結果の判定は別表 9 によって行う。

ウ 喀痰細胞診

(ア) 対象者

質問の結果、原則として 50 以上で喫煙指数（1 日の本数×年数）600 以上の者（過去における喫煙者を含む）。

(イ) 検査方法

喀痰は、起床時の早朝痰を原則とし、最低 3 日の連続採痰又は蓄痰とし、ホモジナイズ法又は直接塗抹法で処理し、パパニコロウ染色した標本を顕微鏡下で観察する。結果の判定は、別表 10 によって行う。

(3) 指導区分

質問、胸部エックス線写真の読影及び喀痰細胞診の結果を総合的に判断し、「肺がん疑い要精検」、「結核等疑い要精検」及び「精検不要」に区分する。

ア 「肺がん疑い要精検」及び「結核等疑い要精検」とされた者については、精密検査の可能な医療機関で早期受診するよう指導する。

イ 要精検以外の者は「精検不要」に区分し、経過観察あるいは定期検診の受診勧奨を行うとともに、喀痰細胞診検査を実施した者については、禁煙等日常生活上の指導を行う。

(4) 結果の通知等

検診実施機関の長は、検診実施後 28 日以内に肺がん検診結果報告書（受診者連名簿）（別記様式第 6 号を参考にする。）により市町村長に通知し、あわせて要精検者に対する主治医あての肺がん検診結果連絡票（別記様式第 7 号を参考にする。以下、「連絡票」という。）を送付する。市町村長は、その結果を速やかに受診者に通知する。

(5) 精密検査結果の把握

ア 市町村長は、「肺がん疑い要精検」とされた者に対し連絡票及び肺がん検診精密検査回報書（別記様式第 7 号を参考にする。以下「回報書」という。）を交付する。

イ 精密検査を実施した医療機関は、その結果を回報書に記入し市町村長に通知する。

ウ 市町村長は、「結核等疑い要精検」とされた者についても、受診状況や精検結果等を把握するものとする。

(6) 肺がん予防に関する健康教育の実施

市町村長は、肺がん検診の実施にあわせて、肺がんの 1 次予防に関する健康教育を行うものとする。

5 乳がん検診

(1) 対象者

当該市町村の区域内に居住地を有する 40 歳以上の女性を対象とする。

(2) 検診内容

ア 問診

問診項目は、別表 11 を参考とする。

イ 乳房エックス線検査（マンモグラフィをいう。以下同じ。）

40 歳以上 50 歳未満の対象者については、原則として内外斜位方向及び頭尾方向撮影の 2 方向撮影を実施する。ただし、地域の実施体制等により、実施が困難な場合は、段階的な実施に努めることとする。

50 歳以上の対象者については、内外斜位方向撮影を実施する。

ウ 視診及び触診（以下「視触診」という。）

推奨しないが、仮に実施する場合は、マンモグラフィと併せて実施すること。

(3) 検診間隔

原則として同一人につき 2 年に 1 回検診を実施する。

(4) 指導区分

乳がん検診の結果は、問診、マンモグラフィ及び視触診の結果により、「異常認めず」及び「要精検」に区分する。「要精検」と判断する場合は、マンモグラフィ又は視触診のいずれかが該当する場合に判定する。

(5) 結果の通知等

検診実施機関の長は、検診実施後 20 日以内に乳がん検診票（別記様式第 8 号を参考にする。）等により、結果を市町村長に通知し、あわせて要精検者に対する主治医あての乳がん検診結果連絡票（別記様式第 9 号を参考にする。以下「連絡票」という。）を送付する。市町村長は、その結果を速やかに受診者に通知する。

(6) 精密検査結果の把握

ア 市町村長は、要精検者に対し連絡票及び乳がん検診精密検査回報書（別記様式第 9 号を参考にする。以下「回報書」という。）を交付する。

イ 精密検査を実施した医療機関は、その結果を回報書に記入し市町村長に通知する。

(7) 乳がん予防に関する健康教育の実施

市町村長は、乳がん検診の実施にあわせて、乳がんの 1 次予防や乳がんの自己検診法に関する健康教育を行うものとする。

6 大腸がん検診

(1) 対象者

当該市町村の区域内に居住地を有する 40 歳以上の者を対象とする。

(2) 検診内容

ア 問診

問診項目は、別表 12 を参考とする。

イ 便潜血検査

免疫便潜血検査 2 日法とする。

(3) 指導区分

大腸がん検診の結果は、問診結果を参考に免疫便潜血検査結果により「便潜血陰性」及び「要精検」に区分する。

(4) 結果の通知等

検診実施機関の長は、検診実施後 20 日以内に大腸がん検診結果報告書（受診者連名簿）（別記様式第 10 号を参考にする。）等により、結果を市町村長に通知し、あわせて要精検者に対する主治医あての大腸がん検診結果連絡票（別記様式第 11 号を参考にする。以下「連絡票」という。）を送付する。市町村長は、その結果を速やかに受診者に通知する。

(5) 精密検査結果の把握

ア 市町村長は、要精検者に対し連絡票及び大腸がん検診精密検査回報書（別記様式第 11 号を参考にする。以下「回報書」という。）を交付する。

イ 精密検査を実施した医療機関は、その結果を回報書に記入し市町村長に通知する。

(6) 大腸がん予防に関する健康教育の実施

市町村長は、大腸がん検診の実施にあわせて、大腸がんの1次予防に関する健康教育を行うものとする。

7 総合がん検診

(1) 対象者

当該市町村の区域内に居住地を有する者を対象とし、節目検診として実施する。

(2) 実施方法

2から6までの全てのがん検診を同時に実施するものであり、原則として同時実施が可能な検診実施機関において実施するものとする。

(3) 検診内容

2から6までに規定する検診内容とする。ただし、肺がん検診における胸部エックス線検査については、検診実施機関で直接撮影により撮影された胸部エックス線写真を用いるものとする。

(4) その他

「指導区分」、「結果の通知等」及び「精密検査結果の把握」等については2から6に定めるところに準じて実施するものとする。

二 実施手続きについて

特定健診は国が定めるところによるものとし、がん検診については次のとおりとする。

1 がん検診の実施機関について

市町村長は、がん検診を委託する場合には、次に掲げる要件を満たす検診実施機関を選定するものとする。

(1) がん検診等実施指針及びこの要領の定めるところによるがん検診の実施体制が整備されていること。

(2) 山形県及び管理指導協議会の求めに応じ、検診精度を管理するうえで必要な資料の提出及び調査等に協力できること。

2 実施計画の策定について

がん検診が計画的かつ能率的に行われるよう、次により実施計画を策定するものとする。

(1) 市町村長は、翌年度の年間検診実施計画（別記様式第12号）を策定し、11月末日まで検診実施機関に提出する。

(2) 検診実施機関の長は、前項により提出のあった年間検診実施計画に基づき、市町村長と協議のうえ総合的に検討を加え市町村別検診計画を策定し、翌年の1月末日まで市町村長、保健所長及び山形県医師会長に提出する。

なお、市町村別検診計画を策定するにあたって、必要に応じ保健所の指導調整を得るものとする。

(3) 保健所長は、市町村間の不均衡が生じないように、必要に応じ、関係機関と連携を密にして指導調整を図る。

三 報告について

1 市町村長は、がん検診について毎年7月20日までにがん検診実施成績表（別記様式第13号。以下、「成績表」という。）2部を保健所長に提出するものとする。

2 保健所長は、前項の成績表をとりまとめのうえ毎年8月10日まで山形県健康福祉部がん対策・健康長寿日本一推進課長（以下「県がん対策・健康長寿日本一推進課長」という）に提出するものとする。

3 県がん対策・健康長寿日本一推進課長は、医療保険者に対し、特定健康診査実施成績表について別途提出を依頼する。

様式等目次

特定健康診査判定基準	別表 1	8 ページ
心電図判定基準	別表 2	9
眼底検査判定基準	別表 3	11
糖尿病・慢性腎臓病健診結果連絡票・糖尿病・慢性腎臓病精密検査回報書		
様式第 1 号		12
胃がん検診問診項目	別表 4	13
胃がん検診結果報告書（受診者連名簿）	様式第 2 号	14
胃がん検診結果連絡票・胃がん検診精密検査回報書	様式第 3 号	15
子宮がん検診問診項目	別表 5	16
子宮がん検診結果の判定について	別表 6	17
子宮がん検診における細胞診判定区分	別表 7	18
子宮がん検診票	様式第 4 号	19
子宮がん検診結果連絡票・子宮がん検診精密検査回報書	様式第 5 号	20
肺がん検診質問項目	別表 8	21
肺癌検診における胸部 X 線検査の判定基準と指導区分	別表 9	22
集団検診における喀痰細胞診の判定基準と指導区分	別表 10	23
肺がん検診結果報告書（受診者連名簿）	様式第 6 号	24
肺がん検診結果連絡票・肺がん検診精密検査回報書	様式第 7 号	25
乳がん検診問診項目	別表 11	26
乳がん検診票	様式第 8 号	27
乳がん検診結果連絡票・乳がん検診精密検査回報書	様式第 9 号	29
大腸がん検診問診項目	別表 12	30
大腸がん検診結果報告書（受診者連名簿）	様式第 10 号	31
大腸がん検診結果連絡票・大腸がん検診精密検査回報書	様式第 11 号	32
年間検診実施計画	様式第 12 号	33
がん検診実施成績表	様式第 13 号	34
胃がん検診	別紙 1	35
子宮がん検診	別紙 2、3	36
肺がん検診	別紙 4、5	38
乳がん検診	別紙 6	40
大腸がん検診	別紙 7	41

特定健康診査判定基準

基本的な健診の項目

判定区分		異常を認めず	要指導 (保健指導判定値)	要受診 (受診勧奨判定値)	備考
腹囲測定 (cm)	男	85.0 未満	85.0 以上		
	女	90.0 未満	90.0 以上		
肥満度		25 未満	25 以上		BMI による
血圧 (mmHg)	収縮期	129 以下 かつ	130~139 または	140 以上 または	
	拡張期	84 以下	85~89	90 以上	
血中脂質検査	中性脂肪 (mg/dl)	149 以下	150~299	300 以上	※必須ではない。 中性脂肪が 400 mg/dl 以上又は食 後採血の場合 LDL コレステロールに代えて Non-HDL コレステ ロールの測定でも可
	HDL コレステロール (mg/dl)	40 以上	35~39	34 以下	
	LDL コレステロール (mg/dl)	119 以下	120~139	140 以上	
	※Non-HDL コレステロール (mg/dl)	149 以下	150~169	170 以上	
肝機能検査	AST (GOT) (IU/l)	30 以下	31~50	51 以上	
	ALT (GPT) (IU/l)	30 以下	31~50	51 以上	
	γ-GT (γ-GTP) (IU/l)	50 以下	51~100	101 以上	
血糖検査	空腹時血糖 (mg/dl)	99 以下	100~125	126 以上	
	ヘモグロビン A1c (%)	5.5 以下	5.6~6.4	6.5 以上	
尿検査	尿糖	(-)	(±) 以上		
	尿蛋白	(-)~(±)	(+)	(++) 以上	

・上表の「空腹時血糖並びにヘモグロビン A1c」の判定値は、メタボリックシンドロームの判定基準とは異なるので要注意。

詳細な健診の項目

貧血検査	赤血球 ($10^4/\mu\text{l}$)	男	420 以上	400~419	399 以下		
		女	380 以上	350~379	349 以下		
	血色素 (g/dl)	男	13.1~17.9	12.1~13.0	12.0 以下 (18.0 以上)		
		女	12.1~15.9	11.1~12.0	11.0 以下 (16.0 以上)		
ヘマトクリット (%)	男	39.0 以上	33.0~38.9	32.9 以下			
	女	36.0 以上	30.0~35.9	29.9 以下			
eGFR (ml/min/1.73 m ²)		60 以上	59~45	44 以下			
心電図		0	I	II	III	IV	判定基準は別紙
眼底	Scheie分類	H ₀ S ₀	H ₁ S ₀ H ₀ S ₁ H ₁ S ₁	H ₂ S ₀ H ₂ S ₁ H ₀ S ₂ H ₁ S ₂ H ₂ S ₂	H ₃ S ₀₁ H ₃ S ₂ H ₀₂ S ₃₄	H ₄ S ₀₄ H ₃ S ₃₄	判定基準は別紙
		H が 0~1 で出血、白斑(浮腫)がある場合は II とするが、S が 3~4 の場合は III とする。					
改変 Davis 分類		異常なし			それ以外		

・BMI(ボディ・マス・インデックス) $\text{体重(kg)} \div [\text{身長(m)}]^2$

・判定区分は上記 3 区分とするが、心電図及び眼底については、「要指導」を「要観察」及び「要指導」に、「要受診」を「要精査」及び「要受診」等に細分化しても差し支えない。

心電図判定基準

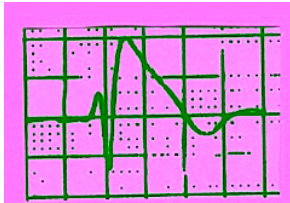
所 見	程度区分	所 見	程度区分
QRS軸偏位		波形の異常	
1 右軸 (+120° ~ -150°)	I	1 P波	
2 左軸 (-30° ~ -90°)	I	右房負荷	III
3 不定軸	I	(P _{II} 、III、aV _F ≥ 0.25mV 且つ P _{V1} 尖鋭増高化)	
4 極端な偏位(-91° ~ -149°)	III	左房負荷	III
		(P _I 、II、2峰性且つ P _{V1} 後半の陰性部分大)	
刺激生成異常		2 Q、QS型	III
1 洞性頻脈 (100~119)	I	(≥0.04秒、≥0.03秒で深さがR波高の1/3以上)	
(≥120)	III		
2 洞性徐脈 (40~49)	I	3 R波減高	I
(<40)	III	4 右室肥大	
3 洞停止・洞機能不全疑	III	RV ₁ ≥ 0.7mV + R/S V ₁ ≥ 1.0 + 右軸偏位	III
4 心房細動	IV	5 左室肥大	
5 心房粗動	IV	RV ₅₍₆₎ + SV ₁ ≥ 4.0mV 且つ RV ₅₍₆₎ ≥ 2.6mV	I
6 上室性期外収縮		RV ₅₍₆₎ + SV ₁ ≥ 5.0mV 且つ RV ₅₍₆₎ ≥ 2.6mV	III
散発性(全記録波形の1/10以下)	I	6 低電位(QRS _{I、II、III} < 0.5mV)	I
頻発性、連発性	III	(QRS _{V1-6} < 1.0mV)	III
7 心室性期外収縮		7 S T低下	
散発性(全記録波形の1/10以下)	I	軽度(0.05~0.1mV)	III
頻発性	III	(I、II、aV _L 、aV _F 、V ₁₋₆ にある場合)	
多源性、連発、RonT	IV	高度(0.1mV以上)	IV
8 人工ペースメーカー	IV	8 T波	
		軽度(平低と0.5mV未満の陰性T)	III
		(I、II、V ₃₋₆ 、0.5mV以上のRを持つaV _L)	
		高度(0.5mV以上の陰性T)	IV
		(I、II、aV _L 、aV _F 、V ₃₋₆ にある場合)	
刺激伝導異常		9 QT延長 (QT _c ≥ 0.48秒)	III
1 洞房ブロック	III	10 陰性U波	III
2 房室ブロックI度(≥0.22秒)	II		
3 房室ブロックII度	III		
4 房室ブロックIII度	IV		
5 不完全右脚ブロック	I		
6 ブルガダ型心電図	III		
V ₁ 、2でJ波高 ≥ 0.2mVで			
ST-Tの形態がcoved型			
あるいはsaddle back型			
7 完全右脚ブロック	I		
8 左脚ブロック	III		
9 心室内ブロック	III		
10 左脚前枝ブロック	II		
11 早期興奮症候群(WPW)	I		
12 早期興奮症候群(LGL)	I		
		その他の異常	

判 定	0 異常なし
	I 要観察 軽度の所見のみで問題の無いもの。年1~2回心電図検査を。
	II 要指導 数ヶ月以内に再検査を。
	III 要精査
	IV 要医療

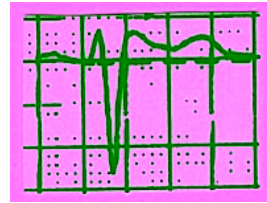
手引き

1. 完全、不完全右脚ブロックはV₁でR<R'であること。
2. 心室内ブロックとは右脚ブロックでも左脚ブロックでもないが、QRS幅が0.120秒以上のもの。
3. 左脚前枝ブロックのQRS電気軸は-60°以上であること。
4. 左房負荷の後半の陰性部分大とは Morris 指数 ≥ 0.04 mm 秒
(V₁におけるPの陰性部分；深さ a mm×幅 b 秒)
5. Q、QS型は (イ) WPW症候群・完全左脚ブロックがあれば取り上げない。
(ロ) aV_Lでの異常Q波は ≥ 0.04 秒以上で、R波が3mm以上のこと。
(ハ) QS型がV₁のみに認められた場合は異常としない。
(ニ) aV_Fの異常Q波は ≥ 0.05 秒以上のこと。
(ホ) IIIの異常Q波は ≥ 0.05 秒以上かつaV_FのQ波が0.1mV以上のこと。
6. ST低下についての0.1mV以内の junctional ST低下は問題としない。
7. T平低とはR波の1/2以下。
8. 「その他の異常」について
(イ) 左脚後枝ブロックが認められた場合には「その他の異常」に記載しIII。
(ロ) 左脚前枝ブロックに完全右脚ブロックを伴う場合はIIIとする。
(ハ) 左脚前枝ブロックに完全右脚ブロック及び第I度房室ブロックを伴う場合はIVとする。
(ニ) 他に判定基準に載っていないが、記載すべき異常所見が認められた場合には、「その他の異常」の項に程度区分を付記して記入する。
(房室解離、補充収縮、移動ペースメーカー、右胸心、心筋梗塞疑、ST上昇など)
9. ブルガダ型心電図では coved 型が高リスクとされる。

coved 型



saddle back 型



眼底検査判定基準

Scheie 分類

区分 程度	H 所見 (高血圧性変化)	区分 程度	S 所見 (細動脈硬化性変化)
0 度	正常	0 度	正常
1 度	細動脈狭細(+)、細動脈口径不同(+) (このうち1つ以上あること)	1 度	交叉現象(+)、細動脈反射(+) (このうち1つ以上あること)
2 度	細動脈狭細(++)、 細動脈口径不同(++)	2 度	交叉現象(++)、または銅線状
3 度	2度の変化に加えて、出血点、出血 斑、綿花状白斑または網膜浮腫のみ られるもの。 ただし、網膜中心静脈閉塞症を除く。	3 度	交叉現象(++)+及び銅線状または銀線状 または白線状、交叉現象(+++)または 銀線状又は白線状
4 度	上記3度の所見に加えて乳頭浮腫の あるもの。	4 度	交叉現象(+++)及び銀線状か白線状
その他	H 所見が0また1度で、出血、硬性 白斑、軟性白斑、浮腫のいずれかが あるもの。	判 定 不 能	
判 定 不 能			

区 分	0	I	II	III	IV
所 見	H ₀ S ₀	H ₁ S ₀ H ₀ S ₁ H ₁ S ₁	H ₂ S ₀ H ₂ S ₁ H ₀ S ₂ H ₁ S ₂ H ₂ S ₂	H ₃ S _{0~1} H ₃ S ₂ H _{0~2} S _{3~4} 眼科受診	H ₄ S _{0~4} H ₃ S _{3~4}

- 注) 1. 網膜中心静脈血栓 (閉塞症) は、眼科的治療上からⅢ～Ⅳ。
2. 「その他」該当者は、Ⅱとするが、S_{3~4}の場合はⅢとする。

改変 Davis 分類

網膜症病期	病態	眼底所見
網膜症なし		なし
単純網膜症	血管透過性亢進	毛細血管瘤 網膜点状・斑状・線上出血 硬性白斑、網膜浮腫
増殖前網膜症	血管閉塞	軟性白斑 静脈以上 網膜内細小血管異常
増殖網膜症	血管新生	網膜・乳頭上新生血管 網膜前・硝子体出血 線維血管性増殖膜 牽引性網膜剥離

胃 がん 検 診 問 診 項 目

家族歴	1	家族でがんにかかった人がいますか どこのがんですか	いない	いる 誰が 部位
既往歴	2	胃の病気や腹部の手術をしたことがありますか それはいつごろですか	ない	ある A 胃かいよう B 胃ポリープ C 十二指腸かいよう D 胃炎 E その他 F 手術 年頃
現在の 症状	3	最近（1ヶ月以内）腹が痛みますか	痛まない	A 重苦しい B 軽く痛む C ひどく痛む
	4	最近（1ヶ月以内）胸やけ、げっぷ、すっぱい 水が口にあがる症状がありますか	ない	ある A 胸やけ B げっぷ C すっぱい水
	5	最近（1ヶ月以内）ものつかえる感じが ありますか	ない	ある A のど B むね C みずおち
	6	最近（1ヶ月以内）やせてきましたか	やせない	やせた
受診状況	7	今までに胃のレントゲン検査を受けたこと がありますか	ない	ある (A 集検 B その他) 今までに何回受けたことがありますか () 回 最近受けた年は () 年



年 月 日

胃がん検診結果報告書（受診者連名簿）

市 町 村 長 殿

検診実施機関名

代表者名



胃がん検診の結果は次のとおりです。

撮影 月日			受診 人数		市町村名 地区名		読影委 員会名		
一 連 NO	レ 線 NO	氏名	年 齢	性 別	検診結果（読影結果）		精検 受診 月日	精密検査結果	
					所見	要精検項目		病（疑）名	備考
						内・直・併・他			
						内・直・併・他			
						内・直・併・他			
						内・直・併・他			
						内・直・併・他			
						内・直・併・他			
						内・直・併・他			

年 月 日

胃がん検診結果連絡票

主治医 殿

市 町 村
 検診実施機関

胃がん検診の結果、次の者が精密検査の必要ありとされましての
 で、精密検査を実施くださり、その結果を御回報くださるようお願い
 いたします。

検診区分	検診車・医療機関	検診年月日	年 月 日
氏名		レ線番号	No.
チェック ファイルム	No.1.2.3.4.5.6.7.8	精密検査 指示項目	
※位置を図示する		チェックし た異常所見	
		読 影 委員会名	

胃がん検診精密検査回報書

市町村名	実施機関名	年 月 日	年 月 日
一次検診	検診区分	検診車・医療機関	
	実施月日	年 月 日	レ線番号
精密検査実施年月日	年 月 日	年 月 日	年 月 日
精密検査実施項目	診断内容 (診断名)		
内視鏡 X線直接撮影 生検 その他 ()	除菌を受けたこと 有・無	除菌の結果 成・否・不明	
ヘリコバクター・ ピロリについて	1 要治療 2 さらに精検が必要 3 経過観察 (カ月後) 4 その他		
患者への指示、及び 市町村への連絡事項			
担当医師名			

※ 項目の追加は市町村・検診機関の自由とする。

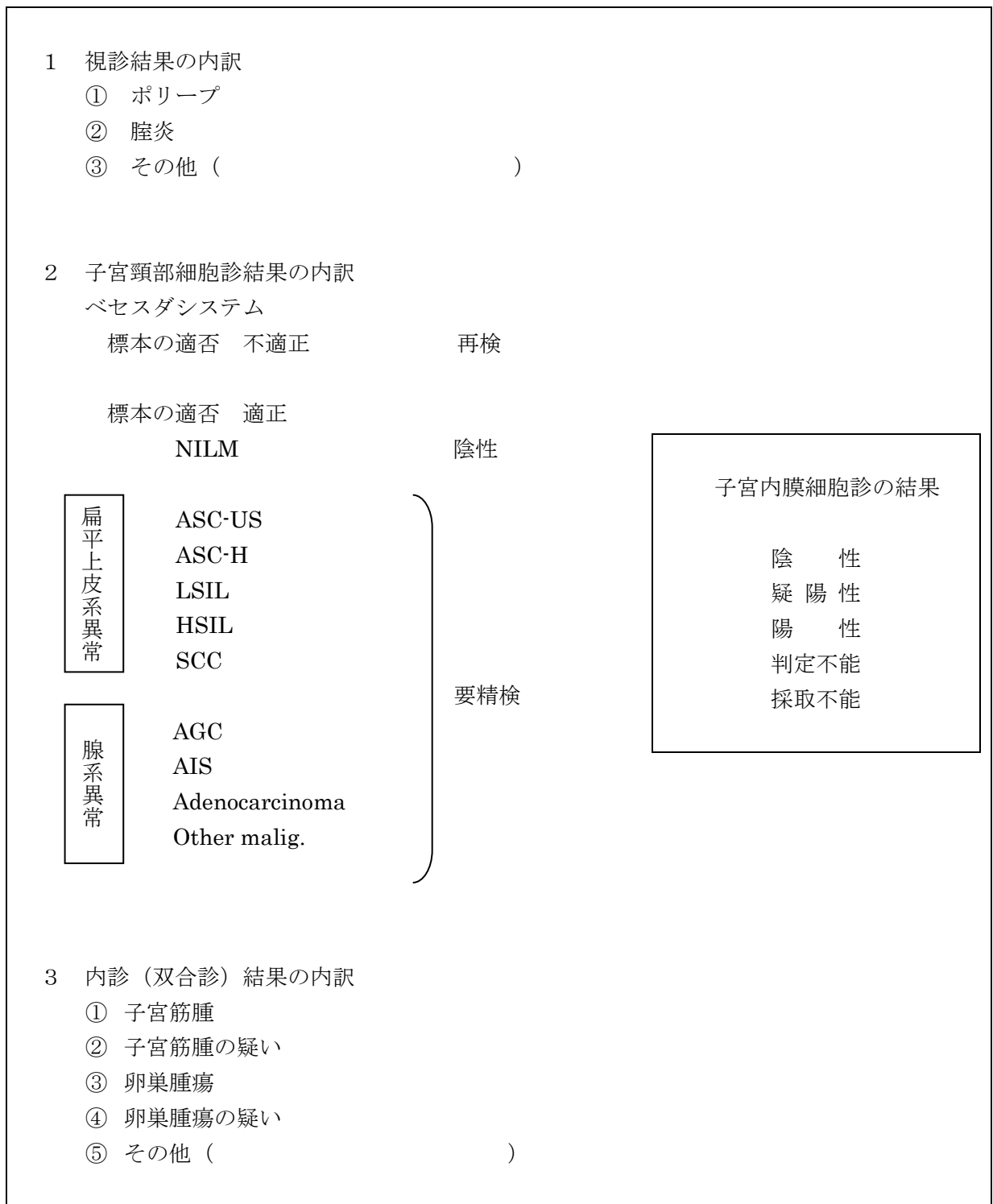
別表5

子宮がん検診問診項目

既往歴 など	1 家族でがんにかかった人がいますか いない・いる () 2 月経の状態 () 日型 整・不整 (最近は 月 日から 日間) 3 閉 経 満 () 歳 4 妊娠及び分娩歴 妊娠歴 ない・ある (分娩 回、最後の分娩 満 歳) 5 今までの婦人科の病気 ない・ある ()
現在の 状況	1 不正出血 (最近6か月以内) ない・ある (色: 鮮血・ピンク・茶褐色) (出血の持続期間 週、 月) 2 おりもの ない・ある (少量・中等量・多量) (色: 緑黄色・少し血が混じっている) 3 いたみ ない・ある (下腹部・腰部) 4 その他 (具体的に)
子宮がん 検診の 受診歴	受診歴 ない・ある (回) 最近の3回 年 月 日 検診車・施設 (異常なし・精検) 年 月 日 検診車・施設 (異常なし・精検) 年 月 日 検診車・施設 (異常なし・精検)
子宮体がん検診 (内膜細胞診) の対象者には、次の項目を追加して問診を行う。	
※ ホルモン剤使用の有無	ない・ある (種類 期間)
※ 子宮内避妊器具使用の有無	ない・ある (期間)
子宮内膜搔爬術 (1か月以内)	受けていない・受けた (平成 年 月 日)

注) ※印の項目については、頸がん検診の問診に含めて行って差し支えない。

子宮がん検診結果の判定について



別表 7

子宮頸がん検診における細胞診判定区分

	結果	略語	推定される 病理診断	従来の クラス分類	英語標記	運用
扁平 上皮系	1) 陰性	NILM	非腫瘍性所見、 炎症	I、II	Negative for intraepithelial lesion or malignancy	異常なし
	2) 意義不明な 異型扁平 上皮細胞	ASC-US	軽度扁平上皮 内病変疑い	II-III a	Atypical squamous cells of undetermined significance	要精密検査： HPV検査(※) または6か月 以内細胞診検査
	3) HSIL を除外 できない異型 扁平上皮細胞	ASC-H	高度扁平上皮 内病変疑い	III a-b	Atypical squamous cells cannot exclude HSIL	要精密検査： コルポ、生検
	4) 軽度扁平 上皮内病変	LSIL	HPV 感染 軽度異形成	III a	Low grade squamous intraepithelial lesion	
	5) 高度扁平 上皮内病変	HSIL	中等度異形成 高度異形成 上皮内がん	III a III b IV	High grade squamous intraepithelial lesion	
	6) 扁平上皮がん	SCC	扁平上皮がん	V	Squamous cell carcinoma	
腺系	7) 異型腺細胞	AGC	腺異型または 腺がん疑い	III	Atypical glandular cells	要精密検査： コルポ、生検、 頸管および 内膜細胞診 または組織診
	8) 上皮内腺がん	AIS	上皮内腺がん	IV	Adenocarcinoma in situ	
	9) 腺がん	Adeno ca cinoma	腺がん	V	Adenocarcinoma	
	10) その他の 悪性腫瘍	Other malig.	その他の悪性 腫瘍	V	Other malignant neoplasms	要精密検査： 病変検索

1) 陰性は腫瘍性細胞所見を認めない場合であり、HPV 感染以外による炎症所見や修復細胞所見もここに含まれる。

※ HPV 検査陰性の場合には1年後に細胞診を行い、HPV 検査陽性の場合にはコルポ・生検を行う。

子宮体がん検診判定及び指導区分

細胞診判定区分	陰性	疑陽性・陽性
指導区分	精検不要（定期検診）	要精検

子宮がん検診票

番号		氏名		生年月日 (年齢)	年 月 日 (歳)
住所				世帯主	
既往歴など	1	家族でがんにかかった人はいますか。	いない・いる (誰が) 部位 ()		
	2	月経はどうか。	() 日型 整・不整 (最近は 月 日から 日間)		
	3	閉経は何歳の時ですか。	満 歳		
	4	妊娠したことはありますか。	ない・ある (分娩は 回)		
	5	最後の分娩は何歳の時ですか。	満 歳		
	6	今までの婦人科の重い病気になったことはありますか。	ない・ある (病名)		
現在の状況	7	最近 (6か月以内に)、不正出血はありますか。	ない・ある (色: 鮮血・ピンク色・茶褐色) (出血の持続期間)		
	8	最近、おりものはありますか。	ない・ある (少量・中等量・多量) (色: 緑黄色・少し血が混じっている)		
	9	最近、お腹や腰が痛みますか。	痛まない・痛む (下腹部・腰部)		
	10	上記の他に気がついたことがあれば記入してください。			
11 今まで子宮がん検診を受けたことはありますか。			ない・ある (何回ありますか 回) 最近の3回を記入してください。 年 月 日 検診車・施設 (異常なし・精検) 年 月 日 検診車・施設 (異常なし・精検) 年 月 日 検診車・施設 (異常なし・精検)		
検診結果	視診所見	1 ポリープ 2 膣炎 3 その他 ()			
	内診所見 (双合診)	1 子宮筋腫 2 子宮筋腫の疑い 3 卵巣腫瘍 4 卵巣腫瘍の疑い 5 その他 ()			
	頸部細胞診所見	採取方法	サーベックスブラシ 頸管ブラシ スーパーテル 綿棒 その他 ()		
		標本適否	適正 不適正 (理由)		
		陰性	NILM 微生物 その他の非腫瘍性所見		
		扁平上皮系	ASC-US ASC-H LSIL HSIL SCC		
		腺系その他	AGC AIS 腺がん その他の悪性腫瘍		
★ ()					
※ 子宮体がん検診	ホルモン剤による治療を受けていますか。 (ステロイド剤の服用など)		いない・いる (種類) (期間)		
	子宮内避妊器具を使用していますか。		いない・いる (期間)		
	1か月以内に子宮内膜搔爬術を受けましたか。		受けない・受けた (年 月 日)		
	内膜細胞診所見		陰性 疑陽性 陽性 判定不能 採取不能 ★ ()		
指導区分		定期検診	要精検	要受診	
検診年月日		年 月 日		検診実施機関及び医師名	
					印

指導区分 要精検：子宮がんの異常 要受診：子宮筋腫など子宮がん以外の異常
★必要があれば () 内に、その他の所見等を記載する。 ※子宮体がん検診の対象者に行う。

子宮がん検診結果連絡票

年 月 日

主治医殿

市 町 村
 検診実施機関

子宮がん検診の結果、次の者が精密検査の必要ありとされまされたので、精密検査を実施していただき、その結果を御回報くださるようお願い致します。

検診年月日	年 月 日	検診番号		
氏 名	住 所			
	推定病変	日母分類		
頸部 細胞診 所見	ベセスダシステム	<input type="checkbox"/> 微生物	I, II	
	<input type="checkbox"/> 陰性 (NILM)	<input type="checkbox"/> その他の非腫瘍所見		
	扁平上皮系異常			
	<input type="checkbox"/> ASC-US	軽度扁平上皮内病変疑い	II - III a	
	<input type="checkbox"/> ASC-H	高度扁平上皮内病変疑い	III a - III b	
	<input type="checkbox"/> LSIL	<input type="checkbox"/> HPV 感染	III a	
		<input type="checkbox"/> 軽度異形成		
	<input type="checkbox"/> HSIL	<input type="checkbox"/> 中等度異形成	III a	
		<input type="checkbox"/> 高度異形成	III b	
		<input type="checkbox"/> 上皮内がん	IV	
<input type="checkbox"/> SCC	扁平上皮がん	V		
腺系異常およびその他				
	<input type="checkbox"/> AGC	腺異形または腺がん疑い	III	
	<input type="checkbox"/> AIS	上皮内腺がん	IV	
	<input type="checkbox"/> Adenocarcinoma	腺がん	V	
	<input type="checkbox"/> Other malign.	その他の悪性腫瘍	V	
細胞所見				
※内膜細胞診所見	陰性	疑陽性	陽性	判定不能 採取不能
臨床診断	★ ()			
問診	視診			
内診				

注) ★には、必要があれば () 内に、細胞診断名や所見等を記載する。

※は、子宮体がん検診の対象者について記載する。

子宮がん検診精密検査回報書

市町村名				
一次検診年月日	年 月 日			
検診番号	No.			
精密検査年月日	年 月 日			
頸部細胞診 (ベセスダシステム)	NILM: 微生物 その他の非腫瘍 要精検: ASC-US ASC-H LSIL HSIL SCC AGC AIS 腺がん その他の悪性腫瘍			
HPV検査結果				
内膜細胞診	陰性	疑陽性	陽性	判定不能 採取不能
双合診等				
精密検査結果	異常なし			
	異形成 [CIN1・CIN2]			
	子宮頸がん			
	[上皮内がん (CIN3)			
	・微小浸潤がん・浸潤がん]			
子宮体がん				
その他の疾患				
()				
患者への指示	1 次回の検診			
および	2 経過観察 (か月後)			
市町村への	3 要治療 (入院・外来)			
連絡事項	4 その他 ()			
担当医師名				

※ 項目の追加は市町村・検診機関の自由とする。

肺がん検診質問用紙

(氏名)

(生年月日) 年 月 日

(性別) 男 ・ 女

<p>①今までに肺がん検診や胸の検査（レントゲン、CT等）を受けたことがありますか。 受けたことがある ・ 受けていない （最後に受けた時期は：_____年前 /どこで：市町村の検診・職場の健診・人間ドック・病院等・その他（ ）） ↓ その時、異常があると言われましたか。 はい（その結果は：_____） ・ いいえ</p>
<p>②肺の病気にかかったことはありますか。 ある ・ ない ↓ それは、何の病気ですか。当てはまるものに○をつけてください。 肺がん・肺結核・肺炎・喘息・慢性閉塞性肺疾患（COPD）・じん肺・その他（病名：_____）</p>
<p>③現在、以下のような肺に関する症状はありますか。当てはまるものに○をつけてください。 ある ・ ない ↓ 咳・痰・血痰・胸痛・息切れ・その他の気になる症状（_____）</p>
<p>④たばこを吸いますか。当てはまるものに○をつけてください。 現在吸っている ・ 吸っていたがやめた ・ 吸ったことがない ↓ ↓ （1日本数：_____本、_____年間）（_____年前からやめた）</p>
<p>⑤仕事で以下のようなものに関わる作業に従事したことがありますか。 ある ・ ない ↓ 石綿（アスベスト） ・ 粉じん作業 ・ その他特殊健診を要する業務 →ある場合は、その従事期間：_____年間</p>
<p>⑥（女性の方のみお答え下さい） 現在妊娠している、または妊娠の可能性がありますか。 ある ・ ない ↓ （妊娠週数_____週/最終月経_____年_____月_____日）</p>

表 1 肺がん検診における胸部 X 線検査の判定基準と指導区分

二重読影時の仮判定区分	比較読影後の決定判定区分	X線所見	二重読影時の仮指導区分	比較読影を含む決定指導区分
a	A	「読影不能」 撮影条件不良，現像処理不良，位置付不良，フィルムのキズ，アーチファクトなどで読影不能のもの。	再撮影	
b	B	「異常所見を認めない」 正常亜型（心膜傍脂肪組織，横隔膜のテント状・穹窿状変形，胸膜下脂肪組織による随伴陰影，右心縁の二重陰影など）を含む。	定期検診	
c	C	「異常所見を認めるが精査を必要としない」 陳旧性病変，石灰化陰影，線維性変化，気管支拡張像，気腫性変化，術後変化，治療を要しない奇形などで，精査や治療を必要としない，あるいは急いで行う必要がないと判定できる陰影。		
d	D	「異常所見を認め，肺癌以外の疾患で治療を要する状態が考えられる」 肺癌以外の疾患を疑うが，急いで精密検査や治療を行わないと，本人や周囲の人間に大きな不利益があるようなもの。疾患が疑われても急いで精査や治療を必要としない場合には「C」と判定する。肺癌を少しでも疑う場合には「E」に分類する。肺がん検診としての「スクリーニング陽性」は「E」のみである（下記注を参照のこと）。	比較読影	肺癌以外の該当疾患に対する精査
d1	D1	「活動性肺結核」 治療を要する結核を疑う。		
d2	D2	「活動性非結核性肺病変」 肺炎，気胸など治療を要する状態を疑う。		
d3	D3	「循環器疾患」 大動脈瘤など心大血管異常で治療を要する状態を疑う。		
d4	D4	「その他」 縦隔腫瘍，胸壁腫瘍，胸膜腫瘍など治療を要する状態を疑う。		
e	E	「肺癌の疑い」 孤立性陰影，陳旧性病変に新しい陰影が出現，肺門部の異常（腫瘍影，血管・気管支などの肺門構造の偏位など），気管支の狭窄・閉塞による二次変化（肺炎・無気肺など），その他肺癌を疑う所見。 したがって「E」には，肺炎や胸膜炎の一部も含まれることになる。転移性肺腫瘍を疑う所見は「E」に分類する（ただし，転移性肺腫瘍は発見肺癌には含めない）。「E2」の場合には，至急呼び出しによる受診勧奨なども含め，精密検査に関する受診勧奨をより強く行うことが望ましい。		肺癌に対する精査
e1	E1	「肺癌の疑いを否定し得ない」		
e2	E2	「肺癌を強く疑う」		

- 注 1) 比較読影を含む決定指導区分において，E1 判定とは，きわめてわずかでも肺癌を疑うものを意味し，E2 判定とは，肺癌を強く疑うものを意味する。一方，D 判定は，肺癌以外の疾患を疑うものを意味する。
- 2) 肺がん検診の胸部 X 線検査における要精検者とは，比較読影を含む決定指導区分における E1 および E2 を指す。
- 3) 比較読影を含む決定指導区分における D 判定は肺がん検診としての要精検者とは認めない。
- 4) 肺がん検診における胸部 X 線検査で要精検数とは，E1 と E2 の合計数を意味する。
- 5) 肺がん検診における肺癌確診患者数（検診発見肺癌）とは，E1 および E2 判定となった要精検者の中から原発性肺癌と確診された患者数を意味する。
- 6) したがって，D 判定者の中から肺癌が発見されたとしても，検診発見肺癌とは認めない。

別表10

表2 肺がん検診における喀痰細胞診の判定基準と指導区分

(2016改訂)

判定区分	細胞所見	指導区分
A	喀痰中に組織球を認めない	材料不適，再検査
B	正常上皮細胞のみ 基底細胞増生 軽度異型扁平上皮細胞 線毛円柱上皮細胞	現在異常を認めない 次回定期検査
C	中等度異型扁平上皮細胞 核の増大や濃染を伴う円柱上皮細胞	再塗抹または6カ月以内の 再検査
D	高度（境界）異型扁平上皮細胞または 悪性腫瘍の疑われる細胞を認める	直ちに精密検査
E	悪性腫瘍細胞を認める	

- 注 1) 喀痰1検体の全標本に関する総合判定であるが、異型細胞少数例では再検査を考慮する。
- 2) 全標本上の細胞異型の最も高度な部分によって判定する。
- 3) 扁平上皮細胞の異型度の判定は異型扁平上皮細胞の判定基準（表3），および細胞図譜を参照して行う。
- 4) 再検査が困難な時には，次回定期検査の受診を勧める。
- 5) D・E判定で精密検査の結果，癌が発見されない場合には常に厳重な追跡を行う。

肺がん検診結果報告書 (受診者連名簿)

年 月 日

秘 市 町 村 長 殿

肺がん検診の結果は次の通りです。

検診月日
検診場所

検診実施機関
代表者名

印

NO	レ線番号	住所名	氏名	年齢	性別	問診	判定		総合判定 (指導区分)	特記事項
							レ線読影	喀痰細胞診		
						喫煙指数 () 血痰 有 無				
						喫煙指数 () 血痰 有 無				
						喫煙指数 () 血痰 有 無				
						喫煙指数 () 血痰 有 無				

レ線読影判定区分

- A 写真不良
- B 異常認めず
- C 異常所見あるが精検不要
- D 結核等疑い要精検
(肺がん以外の疾患疑い)
- E 肺がんの疑い要精検

喀痰細胞診判定区分

- A 材料不適
- B 現在は異常を認めず
- C 細胞診による経過観察を要する
- D 悪性腫瘍を疑う細胞あり要精検
- E 悪性腫瘍細胞あり要精検
- F 喀痰提出なし

総合判定 (指導区分)

- I 肺がん疑い要精検
- II 結核等 (肺がん以外の疾患) 疑い要精検
- O 精検不要
(→次回定期検診または経過観察)
- X 判定不能

呼吸器検診結果連絡票

検診受診日 _____ 年 _____ 月 _____ 日
 X線番号 _____
 実施主体 _____

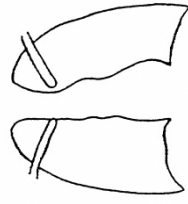
呼吸器検診精密検査回報書

検診受診日 _____ 年 _____ 月 _____ 日
 X線番号 _____
 実施主体 _____
 判定区分 (X線・細胞診) _____ D、E

検診結果

X線検査チェック部位

X線判定区分



A, B, C
 D1, D2, D3, D4
 E1, E2
 細胞診判定区分
 D, E

要望事項

- 肺腫瘍に対する精査(X線 E, 細胞診 D, E)
- 肺結核に対する精査(X線 D1)
- 他の肺疾患に対する精査(X線 D2)
- 心疾患に対する精査(X線 D3)
- その他(X線 D4 等)

精検確定検査 (精検受診日 _____ 年 _____ 月 _____ 日)

- 精検完了者で (著変なし)
- 精検完了者で (他の肺疾患) (診断名: _____)
- 原発性肺癌 (組織診・細胞診) 確定患者 (8 b) 組織型 (扁平、腺、小細胞、大細胞、その他、不明)
- その他の悪性新生物 (転移性肺腫瘍等) 患者 (8 c) (診断名: _____)
- その他の新生物 (良性腫瘍等) 患者 (8 d) (診断名: _____)
- 治療を要する肺結核患者 (8 e)
- 肺癌疑診患者 (組織学的診断に至らないもの (9))
- 不明 (精検完了できず)

備考欄

- 呼吸器検診の結果、精密検査の必要ありとされました。精密検査の実施と結果の回報をお願いします。
- ご報告はできるだけ最終的な確定診断(組織学的診断等)を行った施設から出してくださるようお願いいたします。
- 集計表(作成の都合上)できるだけ検診次年度の5月末、間に合わない場合は11月末までにご報告をお願いします。
 第一次提出期限 検診次年度の 5月末
 第二次提出期限 検診次年度の 11月末
- X線 E 判定又は細胞診 D, E 判定で、8b), 9) の患者は後日調査票の記載にご協力をお願いします。

医療機関名 _____
 担当医師名 _____

※ 項目の追加は市町村・検診機関の自由とする。

別表 1 1

乳がん検診問診項目

<p>既往歴 など</p>	<p>1 家族でがんにかかった人がいますか。 いない・いる ()</p> <p>2 月経の状態 () 日型 整・不整 (最近は 月 日から 日間)</p> <p>3 閉 経 満 () 歳</p> <p>4 妊娠及び分娩歴 妊娠歴 ない・ある (分娩 回)</p> <p>5 今までの乳房や甲状腺の病気 ない・ある ()</p>
<p>現在の 状況</p>	<p>1 乳房の変化 ない・ある (しこり・痛み・湿疹・その他)</p> <p>2 現在の常用薬 ない・ある ()</p>
<p>受診歴 など</p>	<p>1 受診歴 ない・ある (回)</p> <p style="padding-left: 40px;">最近の結果 平成 年 月 日 検診車・施設 (異常なし・要精検)</p> <p>2 乳がんの自己検診について</p> <p style="padding-left: 20px;">ア、方法を 知っている・知らない</p> <p style="padding-left: 20px;">イ、実行を 毎月している・時々している・していない</p>

乳 がん 検 診 票

〔問診欄〕 (子宮がん検診との併用例)

番号	氏名	生年月日	年 月 日 (歳)
住所	世帯主		
既往歴等	1 家族でがんにかかった人はいますか。 どこのがんですか。	ない	ある (誰が) 部位 ()
	2 今までに乳房や婦人科の病気になった ことはありますか。	ない	ある (病名)
	3 今までに甲状腺の病気になったことは ありますか。	ない	ある (病名)
	4 月経について a 規則的ですか。 b 最近の月経はいつですか。 c 又は、閉経は何歳の時ですか。	はい	いいえ (月 日から 日間) [閉経 満 歳]
	5 妊娠したことはありますか。	ない	ある (出産 回)
現在の状況	#6 最近(6ヵ月以内に)、不正出血はありますか。	ない	ある (色…鮮血・ピンク色・茶褐色)
	#7 最近、おりものはありますか。	ない	ある (少量・中量・多量) (色…緑黄・血が混じる)
	#8 最近、お腹や腰に痛みがありますか。	ない	ある (下腹部・腰部)
	9 乳房に変化はありますか。	ない	ある (しこり ・ 痛み ・ 湿疹・ その他) いつ頃から? ()
	10 現在常用している薬はありますか。	ない	ある ()
受診歴等	#11 子宮がん検診を受けたことはありますか。 最も最近受けたのはいつですか。 その結果はどうでしたか。	ない	ある (回) (平成 年 月 日) [異常なし・要精検]
	12 乳がん検診を受けたことがありますか。 最も最近受けたのはいつですか。 その結果はどうでしたか。	ない	ある (回) (平成 年 月 日) [異常なし・要精検]
	13 乳がんの自己検診について 方法を知っていますか。 実行をしていますか。	知っている 毎月している していない	知らない 時々している

注) #印は、子宮がん検診と組み合わせて実施する際に使用する質問項目。

[視・触診及び乳房エックス線検査の結果及び指導区分記入方欄]

番 号			氏 名	
検診所見（視診・触診）				
1	乳房の形態異常	なし	あり	
2	乳房皮膚の異常	なし	あり	
3	乳頭の異常	なし	あり（びらん・陥凹）	
4	腫瘍の有無	なし	あり	
5	圧痛の有無	なし	あり	
6	発赤の有無	なし	あり	
7	乳頭分泌	なし	あり（性状	）
8	リンパ節腫脹	なし	あり（部位	性状
9	甲状腺腫脹	なし	あり（性状	）
10	その他（特記事項）			

検診所見（乳房エックス線検査）

検診年月日		レ線番号	
精密検査 指示項目			
チェックした 異常所見			

指導区分

検診結果の判定 （指導区分）	1 異常なし（月1回の自己検診を） 2 要 精 検（医療機関で精密検査） 要至急 （1）視触診による （2）乳房エックス線検査による		
検診年月日	年 月 日	検診実施機関及び医師名	印

大腸がん検診問診項目

家族歴	1	家族でがんにかかった人はいいますか。 どこのがんですか。	いない	いる だれが 部位
既往歴	2	大腸の病気や腹部の手術をしたことはありますか。 それはいつ頃ですか。	ない	ある 貧血、大腸ポリープ、直腸ポリープ、 大腸炎、胃・十二指腸潰瘍、腸閉塞症、 痔、胃・十二指腸ポリープ、虫垂炎、 肝炎、腸憩室症、膵臓の病気、 胆嚢の病気、その他の病気、 手術の部位 年頃
	3	便秘をしますか。	いいえ	はい
現在の症状	4	便に血がつくことがありますか。	いいえ	はい
	5	排便したあと便が残っている感じがしますか。	いいえ	はい
	6	以前と比べて便が細くなりましたか。	いいえ	はい
受診状況	7	今までに大腸がんの検査を受けたことはありますか。	ない	ある (A 集検 B その他) 最近受けた年は (年) その結果は(A 異常なし B 異常あり)

注) 胃がん検診と大腸がん検診が一緒の場合は、重複する質問項目については調整して実施する。

秘

大腸がん検診結果報告書（受診者連名簿）

市町村長殿

検診実施機関名

代表名

印

大腸がん検診の結果は次の通りです。

検診 月日			受診 人員			市町村名 地区名						
一 連 NO	氏名	年 齢	性 別	検診結果（免疫便潜血）		判 定 (指導区分)						
				1日目	2日目							
				+	・	-	・	不能				
				+	・	-	・	不能				
				+	・	-	・	不能				
				+	・	-	・	不能				
				+	・	-	・	不能				
				+	・	-	・	不能				
				+	・	-	・	不能				
				+	・	-	・	不能				

大腸がん検診結果連絡票

主治医 殿

年 月 日

市 町 村
 検診実施機関

大腸がん検診の結果、次の者が精密検査の必要ありとされましてので、精密検査を実施くださり、その結果を御回報くださるようお願い致します。

検診年月日	年 月 日	検診番号
氏 名	住 所	
一次検診結果	1 日目	＋ ・ ・ ・ ・ 不能
(免疫便潜血)	2 日目	＋ ・ ・ ・ ・ 不能

大腸がん検診精密検査回報書

市町村名	年 月 日
一次検診年月日	年 月 日
検診番号	No.
精密検査年月日	年 月 日
精密検査項目	1. 全大腸内視鏡検査 2. S状結腸内視鏡検査/注腸X線検査 併用 3. 注腸X線検査 (単独) 4. その他※ () ※その他には、大腸CT・カプセル内視鏡・便潜血など具体的に記入のこと、ただし便潜血の再検は精密検査としての意義を有しない
精検結果	1. 異常なし 2. ポリープ (直径: 10mm 以上・10mm 未満) ※最大のもので判定ください (腺腫以外を含む) 3. 大腸がん (部位: 直腸・S状結腸・結腸 (盲腸含む)) 〔 癌腫: 粘膜内 粘膜下層 粘膜内または粘膜下層 (詳細な 深達度不明) 進行がん 進展度不明 癌腫以外の悪性腫瘍 (カポライト・リンパ腫・他 ())) 4. 癌腫以外の悪性腫瘍 (カポライト・リンパ腫・他 ()) 5. 大腸の転移性腫瘍 (原発臓器) 6. 大腸がん疑い 7. その他 (GIST・他 ())
指示項目	1. 要経過観察 (ケ月後) 2. 要治療 (入院、外来) 3. その他 () 4. 他医療機関へ紹介 (医療機関名:)
医療機関名 担当医師名	
他医療機関へ紹介する場合は、この回報書には何も記入せずに 紹介先へ持たせてください。 (ただし、大腸がん確定の場合を除く) ※項目の追加は市町村・検診機関の自由とする。	

年度 健康診査等計画

年 月 日

保 健 所 長 殿

(検診実施機関の長)

年度の健康診査等の計画は次のとおりです。

市町村長

健康診査等		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
検診実施機関														
検診予定月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
検診予定人員(人)														
検診予定日数(日)														
検診実施機関														
検診予定月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
検診予定人員(人)														
検診予定日数(日)														
検診実施機関														
検診予定月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
検診 予定 人員 (人)	子宮頸がん													
	子宮頸がん・体がん													
検診 予定 日数 (日)	乳がん													
	子宮頸がん													
子宮頸がん・乳がん検診														
検診予定日数(日)														
検診実施機関														
検診予定月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
検診予定人員(人)														
検診予定日数(日)														

様式第13号

番 号
年 月 日

保健所長 殿

市町村長



年度がん検診実施成績について

このことについて、下記のとおり提出します。

記

- 1 胃がん検診 (別紙1)
- 2 子宮がん検診 (別紙2・別紙3)
- 3 肺がん検診 (別紙4・別紙5)
- 4 乳がん検診 (別紙6)
- 5 大腸がん検診 (別紙7)

年度 子宮がん検診成績表(2)

【 市町村名:]

※別表

区分	内膜細胞診検査結果				一次検査結果		診 果				精 密 検 査				子 宮 結 果		子 宮 頸 がん (確 診)										
	陰 性	疑 陽 性	要精検		判定 不能	検体 採取 不能	頭 頸 部	管 子 頸	子 宮 頸 腫	子 宮 頸 腫 脱	子 宮 頸 腫 卵 腫 瘍	子 宮 頸 腫 炎	子 宮 頸 腫 其 他	F 精密検査受診者数	F/D 同左率 (%)	上皮内 がん (GIN3) ①	子宮頸がん ②	浸潤 がん ③	子 宮 体 がん	異形成 (GIN1,2)	その疾患	異 な し	G ①+②+③	G/D 陽 性 反 応 適 中 度	G/C② がん 発 見 率		
			陽 性	小計																							
20歳未満																											
20歳～24歳																											
25歳～29歳																											
30歳～34歳																											
35歳～39歳																											
40歳～44歳																											
45歳～49歳																											
50歳～54歳																											
55歳～59歳																											
60歳～64歳																											
65歳～69歳																											
70歳～74歳																											
75歳～79歳																											
80歳以上																											
小計(20歳以上)																											
合 計																											

*実施方法別内訳(再掲)

20歳 検診車																											
未満 施設個別																											
施設一括																											
20歳 検診車																											
以上 施設個別																											
施設一括																											

年度 肺がん 検診 成績 表 (2)

様式5

【 市町村名: 】 ※別表

1) 性別	2) 人口 4月1日現在	3) X線検査 受診者中 高危険群 所属者数	4) 喀痰細胞診受診者数 3)項の 高危険群 所属者中 喀痰容器 提出者数	5) 喀痰細胞診 最終決定判定区分別 受診者数					6) 要精検 者数 D + E	7) 精検受 診者数	8) 精検 確定 結果 (回報書による)			9) 精検未受 診～未完 了の原発 性肺癌疑 診患者数	原発性肺がん (確診)	
				5a) A 材料不適 再検査	5b) B 現在異常 を認め ない	5c) C 追加検査 跡	5d) D ただちに 精密検査	5e) E ただちに 精密検査			8a) 精 完了者数	8b) 原 発性 肺癌 患者 数	8c) 其 他の 悪性 新 生 物 患 者 数		8d) 其 他の 新 生 物 患 者 数	8b)/6D+E 陽性反応 適中度 %
40～44			()													
45～49			()													
50～54			()													
55～59			()													
60～64			()													
65～69			()													
70～74			()													
75～79			()													
80～			()													
男性計			()													
40～44			()													
45～49			()													
50～54			()													
55～59			()													
60～64			()													
65～69			()													
70～74			()													
75～79			()													
80～			()													
女性計			()													
男女計			()													

